

【C. 取組成果の認識の形成】に関する技術項目

予防活動を持続し発展させていくためには、取り組み（活動）によって、どのような変化が生じたのか、しっかりと捉えて成果を認識し、取り組み（活動）の重要性を実感するとともに改善点を見出していくことが重要です。直接的な成果だけでなく、間接的な成果の観点からも評価してみましょう。

8. 直接的な成果の認知

- | | |
|------|---|
| (27) | 「医療費や死亡率などの統計資料だけでなく、人々の生活行動や生活環境などを含む地域診断」から取組成果を捉える |
| (28) | 「住民や関係者が事業の必要性や取組内容を理解していること」を取組成果として認識する |

解説

- (27) 予防活動の成果は、短期的に現れるものではありません。長期的な取組成果として医療費や死亡率といった健康指標を見据えつつ、それらにつながる人々の意識や生活行動、生活環境といった変化を短期的な取組成果として日常の活動のなかで捉えていきましょう。
- (28) 地域のなかで予防活動を推進していくためには、住民や関係者の主体性を促すことが重要です。事業（活動）の継続により、「参加住民や関係者にとっての事業の必要性や内容の理解・主体性が、どのように変化してきているのか」の観点から取組成果を意識的に捉えましょう。

9. 間接的な成果の認知

- | | |
|------|---|
| (29) | 「事業参加者を介して他の住民に活動が波及していること」を取組成果として認識する |
| (30) | 「今までとは違った関係者や、様々な領域からの参加といった、事業参加者の広がり」を取組成果として認識する |
| (31) | 「事業を通して築かれた住民や関係者との関係を他の活動にも生かしていること」を取組成果として意識する |

解説

- (29) (30) 地域における予防活動の評価は、参加住民や関与した従事者だけでなく、家族、近隣者、関係者に及ぼす影響を波及効果として見ていく必要があります。また、そうした波及効果を意識的にねらって事業や活動を展開させていくことが重要です。住民の事業（活動）の認知度や新規参加者の広がり、協力関係機関・関係者の広がりや理解の深まりを取組成果として捉えてみましょう。
- (31) 一つの事業（活動）を通して築かれた住民や関係者との関係が、異なる事業（活動）においても活かされたのであれば、それも取組成果として意識することが重要です。いくつかの事業（活動）を積み重ねていくことによって、住民や関係者との協働関係は構築されていきます。